

# 「資本論を読む会」便り

No. 17-18合併号  
2017.1.9

明けましておめでとうございます。

世界も日本もますます大きく揺れ動くようになるかも知れません。未来を見据えるために今年もしっかりと資本論から学びたいと思います。

昨年、参加される方が増え議論がいつそう活発になり、理解がより深まったように思われます。議論を通して、既に読んだ箇所の理解の不十分さに気づかされたりもしました。今年も新しい参加者を迎えられることを願っています。

さて今回は、今読み進めている第1章第3節のあらすじを作ることに挑戦します。これまで細かな点にも注意して、難所から滑落しないように相当の期間をかけて歩を進めてきました。ですのでこういう作業も意味があるかと思えます。

※ 編集人の事情で、第18回例会後の発行を飛ばして、今号を17・18合併号としました。

## ★資本論の目次

まず、資本論の目次を見てください。

### 第1部 資本の生産過程

#### 第1篇 商品と貨幣

##### 第1章 商品

###### 第1節 商品の2つの要因 使用価値と価値（価値実体 価値量）

###### 第2節 商品に表わされる労働の二重性

###### 第3節 価値形態または交換価値

###### A 単純な、個別的な、または偶然的な価値形態

###### 1 価値表現の両極 相対的価値形態と等価形態

###### 2 相対的価値形態 a 相対的価値形態の内実 b 相対的価値形態の量的規定性

###### 3 等価形態

###### 4 単純な価値形態の全体

###### B 全体的な、または展開された価値形態

###### 1 展開された相対的価値形態

###### 2 特殊等価形態

###### 3 全体的な、または展開された価値形態の欠陥

###### C 一般的価値形態

###### 1 価値形態の変化した性格

###### 2 相対的価値形態と等価形態との発展関係

###### 3 一般的価値形態から貨幣形態への移行

###### D 貨幣形態

###### 第4節 商品の呪物的性格とその秘密

##### 第2章 交換過程

##### 第3章 貨幣または商品流通

#### 第2篇 貨幣の資本への転化

・・・・・・・・・・・・・・・・（以下省略）・・・・・・・・・・・・・・・・

資本論は資本の運動法則を明らかにするわけですが、資本が登場するのは、見られるように第2篇からです。標題から、資本は貨幣が転化したもののようです。その貨幣は、第1篇 商品と貨幣 で登場します。その第1章では商品进行分析し、第3節で、商品の本質である価値の現象形態(価値形態)が、貨幣にまで発展するその仕組みを明らかにしています。ここが、マル

クス自身最も難しいと言っているところです。

この「読む会」はまだ第1章を終わっていませんが、ここを過ぎると、第2章 交換過程、第3章 貨幣または商品流通 へと進みます。

## ★第1節 商品の2つの要因…

- ・商品は使用価値と価値を持つ(商品は使用価値であり価値でもある、とも言う)。
- ・価値は商品の交換価値として現れる。
- ・価値の実体は抽象的人間労働であり、価値の大きさは抽象的人間労働の量である。
- ・抽象的人間労働とは、労働の持つ有用的側面(生産物にいろいろな有用性を与える機能=具体的有用労働)を捨象したもので、頭脳を働かせ筋肉を緊張させ、といった、あらゆる労働に共通な側面を指す。
- ・抽象的人間労働の量は、生産に要した社会的平均労働の時間で測られる。

## ★第2節 商品に表わされる労働の二重性

- ・商品は、具体的有用労働と抽象的人間労働が、結実したものである。
- ・独立した私的労働による、社会的分業の生産物が商品となる。
- ・有用労働はすべての社会形態から独立した、人間の存在条件であり、自然素材に働きかけて使用価値を生産する。
- ・抽象的人間労働は、普通の人間の平均的な単純な労働である。資本主義社会の労働者の不断の形態転換(この仕事からあの仕事へ)がこれを示している。
- ・複雑労働の量は単純労働の量に換算されるが、一つの社会的過程によって生産者の背後で確定される。
- ・有用労働の生産力の上昇は、同じ使用価値の(商品)価値を減少させる。したがって、生産力の上昇が使用価値総量の生産に必要な労働時間の総計を短縮する場合、使用価値の量が増大しても、その価値総量は逆に低下することがあり得る。

## ★第3節 価値形態または交換価値

- ・商品の使用価値の形態は、商品体そのものであり、商品の現物形態である。
- ・商品の価値は内在的なものである。商品の価値の現象形態を価値形態という。
- ・商品の価値対象性は商品と商品との社会的な関係のうちのみ現れる。よって研究は、価値が現象している形態、交換関係に戻ることから始める。
- ・「『資本論』における価値形態論の目的は、商品の価格すなわち貨幣形態の謎を、そしてそれと同時にまた貨幣の謎を解くことにある。ここに貨幣形態の謎というのは、一般に商品の価値が特殊な一使用価値——金——の一定量という形態で表現されることの謎であり、貨幣の謎というのは、この場合金の使用価値——本来価値の反対物たるもの——がそのまま一般に価値として妥当することの謎である。」(久留間「価値形態と交換過程論」)

## ★第3節 A 単純な、個別的な、または偶然的な価値形態

- ・ $x$ 量の商品A =  $y$ 量の商品B または  $x$ 量の商品Aは $y$ 量の商品Bに値する。  
(20エレのリンネル=1着の上着 または20エレのリンネルは1着の上着に値する。)  
※ 以下では、これらの式を前提しています。

## ★第3節 A 1 価値表現の両極 相対的価値形態と等価形態

- ・リンネルは自分の価値を上着で表している → 相対的価値形態にある、と言う。
- ・上着はリンネルの価値を表す材料である → 等価形態にある、と言う。
- ・相対的価値形態にある商品と、等価形態にある商品の関係
  - ① 不可分性: 密接不可分な関係にあり、互いに属しあい制約している
  - ② 対極性:
    - ・リンネルの価値は別の商品によって(=相対的に)のみ表現できる。
    - ・相対的価値形態は別の商品が等価形態にあることを前提とする。
    - ・等価形態にある商品は、価値表現の材料となっているだけである。

## ★第3節 A 2 a 相対的価値形態の内実

- ・単純な価値表現において  
リンネルと、上着はともに同じ性質・同じ実体のもの、すなわち価値である。  
リンネルと上着は同じ質に還元された上で、量的に比較されている。  
リンネルの価値(だけ)が表現されている。  
上着は、価値の存在形態として、価値物(価値が目に見える物)として現れる。  
上着は、リンネルの価値を、上着の現物形態(使用価値)で表している。
- ・商品の価値性格
  - 1) 抽象的人間労働という「価値を形成する労働の社会的な性格」
  - 2) 「人間労働の凝固体」としての価値の「対象的性格」
- ・リンネル = 上着 (という価値関係)の基礎には  
リンネルに含まれる労働=上着に含まれる労働 の関係がある。  
(織布労働) (裁縫労働)  
故に裁縫労働は2つの異種労働の共通な質(抽象的人間労働)を体現している。  
織布労働も価値を織るかぎり、抽象的人間労働である。
- ・上着は、それを作った具体的有用労働である裁縫労働そのものが、ただ単に人間労働力一般だけが支出されたものとして通用しているので、上着の具体的な姿態そのものが価値そのものとして、価値体として通用している。

## ★第3節 A 2 b 相対的価値形態の量的規定性

- ・相対的価値形態は、同時に、量的規定性を持ったものでもある。
- ・商品の生産に必要な労働時間は、織布労働、裁縫労働の生産力が変われば変化する。
- ・この変化の、価値の大きさの相対的表現への影響  
20エレのリンネルの価値が $a$ 倍、1着の上着の価値が $b$ 倍になったとすると、価値関係は  
$$20\text{エレのリンネル} = \frac{a}{b} \text{ 着の上着}$$
となる。1商品の相対的価値は、(1)その商品の価値が不変でも、変動しうる。(2)その商品の価値が変動しても、不変のままであり得る。(3)1商品の価値が変動し、同時にその相対的価値が変動しても、それらの変動が一致するとは限らない。
- ・相対的価値表現だけを見ても、価値量の変化は分からない。

## ★第3節 A 3 等価形態

- ここで等価形態の謎(貨幣の謎の根源)が解かれている。
- ・等価形態にある上着はリンネルの価値量を表現している。上着は表現の材料であり、上着

の自然形態(物的形態) そのものが価値を表わしている。

- ・ここでは、上着はリンネルに対し、「直接」に交換可能である。
- ・上着の価値量は、価値形態によって決まるのではない。
- ・等価形態の

#### 第1の特色

使用価値(商品の現物形態)が、反対物の、価値の現象形態(価値形態)になっている。

上着のこの役割は、リンネルとの価値関係の中に上着が置かれる限りでのこと。

上着が表わしている価値は、リンネルの価値。

上着の自然形態が価値を表わしているのので、価値が上着の自然属性のように見える。

#### 第2の特色

上着を作る具体的労働が、反対物である抽象的人間労働の現象形態になること

#### 第3の特色

上着を作る私的労働がその反対物である直接に社会的な形態にある労働になること

## ★第3節 A4 価値形態の全体

- ・商品Aの価値

質的には 商品Bの、商品Aとの直接的な交換可能性によって表現されている。

量的には 一定量の商品Bの、一定量の商品Aとの交換可能性によって表現されている。

「交換価値」として表示されることによって、独立に表現されている。

- ・商品の単純な価値形態は、商品に含まれる使用価値と価値との対立の単純な現象形態
- ・単純な価値形態の歴史的考察
  1. 労働生産物は、どのような社会でも使用対象である。
  2. 労働生産物が商品となるのは、ただ、ある歴史的発展段階においてに過ぎない。
  3. それは、生産に支出された労働が、その生産物の「対象的」属性＝生産物の価値として表わされる、歴史的な一時期である。
  4. 単純な価値形態は、単純な商品形態。商品形態の発展は価値形態の発展と一致する。
  5. 価値形態は商品生産の滅亡と共に滅亡する。
- ・単純な価値形態 リンネル＝上着 は、
  - ① 上着以外の他の商品との質的な同等性・量的な割合、を表わしていない。
  - ② 上着は、リンネルに対して等価形態＝直接的交換可能性の形態、を持つだけ。
- ・単純な価値形態の、より完全な価値形態への移行  
リンネルが任意の商品と価値関係に入るに従い、様々な単純な価値形態が生ずる。  
リンネルの価値形態の数の上限は、リンネルと異なる商品種類の数。  
リンネルの個別的な単純な価値形態の全体 → 「全体的な、または展開された価値形態」

## ★第3節 B 全体的な、または展開された価値形態

20エレのリンネル＝1着の上着

20エレのリンネル＝10ポンドの茶

20エレのリンネル＝40ポンドのコーヒー

20エレのリンネル＝1クォーターの小麦

20エレのリンネル＝2オンスの金

20エレのリンネル＝1/2トンの鉄

20エレのリンネル＝ その他

### ★第3節 B 1 展開された相対的価値形態

- ・価値そのものが、はじめてほんとうに、無差別な人間労働の凝固として現れる。  
なぜなら、リンネル以外のどの人間労働も、それがどんな現物形態を持つとすべてリンネルの価値を形成する労働に等しいとされているから。
- ・リンネルは商品世界に対して社会的な関係に立つ。商品としてこの世界の市民である。
- ・商品価値はそれが現れる使用価値の特殊な形態には無関係であることが示されている。
- ・リンネルの価値はどの商品で表されようと同一である。
- ・交換が商品の価値量を規定するのではなく、価値量が商品の交換比率を決定することが明らかである。

### ★第3節 B 2 特殊的等価形態

- ・リンネルの等価物となっている個々の商品は、他の商品の中の一つの特殊的な等価形態となっている。
- ・それらの商品体に含まれる様々な特定の有用労働も、その数だけ、人間労働一般の特殊な現象形態として認められている。

### ★第3節 B 3 全体的な、または展開された価値形態の欠陥

- ・第1に、等価形態に立つ商品の連鎖が、新しい商品が出現するたびに無限に延長され完了しない。
- ・第2に、この連鎖はばらばらな雑多な価値表現の多彩な寄せ木細工をなし、統一性がない。
- ・第3に、任意の商品の相対的価値形態は、互いに異なる価値表現の列をなす。  
リンネルの相対的価値形態の列の中に、リンネルは特殊的等価形態としては入っていない。が、鉄の相対的価値形態の列の中には、リンネルが特殊的等価形態として入っている。
- ・展開された価値形態には、互いに排除しあう制限された等価形態があるだけ。  
特殊の商品等価物に含まれている特定の具体的有用労働も、人間労働のの特殊な現象形態でしかない。
- ・人間労働は統一的な現象形態を持っていない。
- ・等価形態にある商品の所持者から見ると、彼らは彼らの商品をリンネルと交換する。すなわち、リンネル以外の商品はすべて、リンネルを等価物とする。

### ★第3節 C 一般的価値形態

1着の上着	=	} 20エレのリンネル
10ポンドの茶	=	
40ポンドのコーヒー	=	
1クォーターの小麦	=	
2オンスの金	=	
1/2トンの鉄	=	
その他	=	

## ★第3節 C 1 価値形態の変化した性格

- ・ 一般的価値形態においては,すべての商品が自らの価値を,ただ一つの商品,リンネルで表している。
- ・ 諸商品の価値形態は
  - (1) 単純である。
  - (2) 統一的である。すなわち,一般的である。

\*\*\*\*\*

ここまでの,これまで読み進んで来たところです。さほど重要でないことを書くかわりに重要なことを落としている,などということがなければ良いのですが……。

お気づきの点がありましたら,次回以降の例会でご指摘いただければ助かります。

### ◆わかりにくい語句

読む会の議論の中で何度もその意味を確認した語句を集めてみました。文脈や言い回しの違いで意味が微妙に変化している語句,意味の違いが微妙な語句などです。チェックしておくとも便利かもしれません。

有用性と使用価値

使用価値がある,使用価値である

交換価値,価値,商品価値,値打ち,値する

価値がある,価値である

価値物,価値体,等価物

価値表現

社会的,私的

有用労働,具体的労働,具体的有用労働

人間労働,抽象的人間労働

直接的交換可能性

価値関係,交換関係

内的,内在的

外的対象性

対立,内的対立,外的対立

現象,現象する,現象形態,実現形態

捨象,捨象する,抽象,抽象する